

平成 22 年 11 月 24 日
社団法人日本物流団体連合会

物流連が中学校で日本通運の「出前授業」を実施

社団法人日本物流団体連合会（物流連 会長：宮原耕治）は、11 月 19 日に東京都板橋区立上板橋第三中学校（新飯田潤一校長 板橋区常盤台 3-30-1）体育館において、中学 1 年生を対象に「出前授業」を実施しました。

この出前授業は、物流連が東京都板橋区教育委員会指導室より小・中学生へのキャリア教育推進の一環としての取組みである「働く人のお話を聞く会」の講師依頼を受けたものであり、物流業界の社会的認知度向上にも繋がる取組みであると考え、物流連会員企業である日本通運株式会社（川合正矩社長）に講師選出を依頼し、同社東京オフィス・サービス支店（鈴木仁支店長）飯田町物流センター事業所営業課の太田泰生物流企画係長が授業を行いました。

当日は 13 時 35 分から 14 時 25 分までの 5 時間目「総合的な学習の時間」を利用し、『人に役立つ一心を届ける物流の意味』と題して、「はたらくこととは」「物流とは」といったテーマについて、学校での生徒それぞれの役割（給食係やサッカー部など）や引越しなど、生徒にも身近な例を使い、手描きのイラストを用いるなどし説明しました。冒頭からランダムに生徒に質問をして答えを引き出し、一方的な講義形式ではなく、終始全員参加で授業は進みました。

また、取り扱っている商品の説明に際しては、実際に同社の商品である「ペーパーリサイクルボックス」を持ち込み、環境問題への対策の必要性についても触れました。

太田物流企画係長は、日本通運をはじめ数多くの物流企業は、見える部分・見えない部分で、お客様に信頼されるよう物流の価値を高めるために様々な商品を開発していると説明しました。そして、はたらくとは、お金をもらう＝職業という意味だけではなく、広い意味では人がそれぞれの役割を果たすことであり、人の役に立ちたいという気持ちをもって色々な場面で活躍してほしいと述べました。

物流連ではこれまでに「中学生の職場体験」や「物流見学ネットワーク（施設見学会）」の受け入れを会員企業に依頼し推進してまいりましたが、出前授業を行ったのは今回が初めてとなります。今回授業に参加した生徒 138 名は、今年 9 月に職場体験実習を行ったばかりということもあり、それぞれの経験を思い起こし、和やかなムードの中でも講師の話を真剣に聞いていました。

職場体験や施設見学会とは異なり、出前授業では、1学年などの大人数が分散することなく同時に様々な業種の社会人の貴重な話を聞くことができ、また質問と回答を繰り返すことで生徒に参加意識が強く芽生え、共に授業を作り上げるという一体感が生まれます。また学校側としても、生徒の外出に伴う移動がない分、前者に比べてリスクが少なく費用も抑えることができ、強い期待が寄せられています。

今回、出前授業を引き受けて頂いた日本通運株式会社は、CSRを担当する環境・社会貢献部（山口達郎専任部長）が窓口となり、国が推進するキャリア教育を通じて社会貢献の一分野である次世代の人材育成に寄与することを目的に、今後もこのような活動を実施していくことになっています。

当連合会としては、人材育成・広報委員会に設置した職場体験・施設見学推進小委員会を中心に、会員企業・団体への参加呼びかけを広く行うとともに、授業実施時のサポートなどを行っていく予定です。

社団法人日本物流団体連合会

東京都千代田区霞が関 3-3-3 全日通霞が関ビル

TEL:03-3593-0139 FAX:03-3593-0138

人材育成・広報委員会事務局 担当：中野

